

原発

「信」なくんば立たず

我が国には、昔からの警句に「幸運は稀まれにしか来ないが、災難は連続して来る」という言葉がある。

「3・11の地震」は、大津波、東京電力福島第一原発の事故、それが惹起じゃつきしたものは放射能の拡散、魚介への汚染、そして、放射線量は農作物や家畜にとどまらず、家財を放棄せざるを得なくなつた人々を産み出した。加えて、福島海と大地から頂いていた恵みへの風評の被害は予想を超えるものであつた。

しかし、考えてみれば、我々の平穏な日常の生活は偶然の連続に過ぎず、陸地といえども、日頃浮島の上で暮らしているようなものかも知れないのだ。家を新築するとき地鎮祭を行い、大相撲の力士が土俵で四股を踏む作法は、日本人が古くから地震や津波を忘れないようにする為の大地への「畏敬」という「儀式」だったのかも知れない。と改めて考えさせられた。

さて、原発事故は想定外の大津波によるものと云われているが、「想定」という言葉が存在する以上「想定外」は当然「想定」という言葉の範疇に内在していなければならない。我々が初めて経験した悲惨さは、人間の思い上がり、経費節減の何ものでもなかった

のである。資本主義優先社会に天誅を加えられた思いがする。救いは、被災者の多くが天も個も恨むことなく、この世の不条理を肅然と受け入れ、互助の精神を昔ながらの「結」^{ゆい}や「絆」として残していたことであつた。

ところで私は、被災地県に住む一人として主張したいことがある。

被災地の筆舌に尽くせない悲劇を羅列するつもりはないが、被災地の復興を早めるためにも放射線量と健康の因果関係について、早急に老若^{ろうにやく}にも解る内容で広報する必要があると考えるものである。事

故直後の東京電力、原子力安全・保安委員、政府の会見、公共放送

の解説委員の言葉は世界中を含め、全ての国民が固唾^{かたず}を呑み傾聴し

ていたのである。人々は神仙にも縋る思いでこの時の専門家たちの

一貫した「放射線漏れはない」の言葉を「天の声」とし、人々は一度^{ひとたび}

は胸を撫で下ろした。しかし、数日後、「核燃料容器の熔融」という

に一語によって、一転奈落に突き落とされたのである。彼らが確信

のないままとりあえず混乱を避けるためにと、事実を歪曲して報道

していたとしたならば、全国民を騙し人々の心を愚弄^{ぐろう}したことになる。

この場合、憶測や気休めは許されなかったのである。この人た

ちの虚言と曖昧さがその後の悲劇を大きくしたことは疑う余地がな

い。従って、彼らはその罪を逃れる方法はない。刑事罰は逃れることが出来たとしても、国民に対しての信頼の失墜と良心の痛みを背負って生きなければならなかったのである。もっとも一部の人は「大所高所からの判断である」と全く誠意の伝わってこない謝罪を繰り返しているが、国民はそれほど愚かな集団ではない。言葉は力も持つが、虚言に騙されたと知った時から、言葉は無力に留まらず反作用にしか働かない。「信なくば立たず」は未だに死語になってはいない。この大きな罪を犯してしまった人たちこそ汚染地に赴き、大地の洗淨や客土に汗を流すべきなのである。それ以外に今、政治に「信」を取り戻す術はない。責任者にはそれぞれ別な大切な役目がある。と云うかも知れないが、会議場で居眠りしているよりは救われる。

ところで、政治家や大臣とはそれほどに偉いものなのであるか？負け犬の遠吠えに聞こえるかも知れないが、日本の若者の多くが将来「政治家にだけはなりたくない」と答えている。日本人の約四十パーセントは政治に無関心な無党派層といわれる人々なのである。党利と党略の保全にだけキュウキュウとし、美辞麗句の国会答弁の羅列にうんざりしているのである。儀礼的な国会の質疑を垣間

見たからに違いない。独裁政治ならいざ知らず、民主国家において、主権は国民にあることを忘れている政治家が多い。政治が意味を持ち、政治家が国民の負託に応えた時にのみ、政治家と尊称されることを忘れないで欲しい。日本が近代国家に脱皮した明治維新の時代、元勳達は身命を賭し、知力と能力の限りを絞り尽くし国家存亡を乗り切ったと歴史は語っている。

人間の思考の進化は止ってしまったかのようなのである。理想の国をつくるためには、「信こそが兵よりも食よりも大切である」と教えた人は、思えば偉大な賢者であった。この理念と教えの真髄は被災地の復興は、「信」への回帰こそが最優先と教えている。住民の声が大きくなったり、要求が強くなったりしてからコロコロ方針が変わるようでは、政治や行政が後手に回っている何よりの証拠である。被災地の人々は政治家や行政マンのように毎月定額の給料が入ってくるわけではない。見舞いという一時金で食つなぐ死闘が続いているのである。狭い仮設住宅の中で誰にも看取られることなく亡くなつて行く高齢者は、哀れを通り越して惨めである。立法府を預かる政治家先生たちよ！被災地の復興はまさにあなた方の手に握られていることをお忘れなく。